

2013 年度北信越支部大会の報告

北信越支部では 5 月 11 日に新潟市ときめいと（新潟大学駅南キャンパス）において 2013 年度北信越支部大会（総会、支部賞授賞式、研究発表・製品発表検討会、技術交流会）を開催した（共催：新潟大学災害・復興科学研究所 新潟大学理学部）。大会には合計 98 名が参加し、研究発表・製品発表検討会では 53 件の発表があった（写真 1）。



写真 1 研究発表・製品発表検討会

総会では、まず 2012 年度事業報告・収支決算報告及び 2013 年度事業計画・予算案が報告され、承認を得た。次に 2013-2014 年度支部役員の改選について議論され、支部理事及び支部監事が選任された。次いで、現行の支部規約により、新支部理事の互選によって支部長、副支部長が選出された。なお、新支部長については、5 月 23 日の本部理事会にて承認予定の新支部規程に適合するよう、候補者として本部理事会に推薦することとし、本部理事会にて選出後に就任することとなる。顧問・評議員・幹事長・幹事についても、新支部長予定者及び支部理事会から原案が示され、支部役員全体が満場一致で承認された。また、支部規程施行内規および支部表彰規程についても討議が行われ、原案通り承認された。（写真 2）



写真 2 2013 年度北信越支部総会

支部賞授賞式では、雪氷技術賞 1 件、大沼賞 1 件、雪氷功労賞 1 件の計 3 件に対して 2013 年度北信越支部賞が授与された（写真 3）。



写真 3 2013 年度北信越支部賞授賞式

研究発表・製品発表検討会終了後に、新潟駅前のプラスサードにおいて技術交流会が開催され、参加者（56 名）間で熱心な意見・情報交換がなされ、交流を深めた（写真 4）。

なお、支部賞受賞者、研究発表・製品発表検討会プログラム、2013-2014 年度北信越支部役員を以下に示す。



写真 4 技術交流会

支部賞受賞者

雪氷技術賞：越後雪かき道場

件名：除雪ボランティアの技術向上と交流
による豪雪集落活性化への取り組み

大 沼 賞：本田 明治(新潟大学理学部 准教授)

件名：海氷域変動が気象・気候に及ぼすメ
カニズムの解明

雪氷功労賞：丸山 敏介(新潟電機株式会社 代表
取締役)

件名：40年間にわたる雪氷測定器の開発と
学会に果たした貢献

研究発表・製品発表検討会

研究発表・製品発表検討会は 53 件の発表があり、
72 名が参加した。プログラムは以下のとおりであ
る。

研究発表・製品発表検討会プログラム

*は製品発表，ほかは研究発表。

《 第 1 会場 (講義室 A) 》

I 雪氷物理 (9:00-10:30)

座長：山口 悟 (防災科研・雪氷防災研究センタ
ー)・島田 互 (富山大学)

1. 氷-CO₂ 反応によるハイドレート生成に及ぼす
添加物の影響
○大石泰之・高田守昌・東 信彦(長岡技大)
2. 無気泡微細多結晶氷作製装置の設計製作及び
評価
○平見鉄郎・東 信彦(長岡技大)

3. 融解水が介在した乾雪から氷河水への変質実
験
○島田 互(富山大理)
4. 近赤外領域の反射率を用いた積雪比表面積の
測定
○山口 悟・本吉弘岐(防災科研雪氷)・竹内由
香里(森林総研)・遠藤八十一(国際雪形研究
会)・庭野匡思(気象研)・青木輝夫(気象研)
5. 積雪の近赤外領域の反射率と含水率との関係
○山口 悟・本吉弘岐(防災科研雪氷)・青木輝
夫(気象研)・谷川朋範(JAXA)・八久保晶弘(北
見工大)
6. 湿度が吹雪粒子の帯電に与える影響について
○大宮 哲(名大環境)・佐藤篤司(防災科研雪
氷)・藤吉康志(北大低温研)

II 積雪の構造 (10:30-12:15)

座長：安達 聖 (防災科研・雪氷防災研究センタ
ー) 平島寛行 (防災科研・雪氷防災研究センター)

7. 積雪中の不均一水分移動のモデル化
○平島寛行・山口 悟(防災科研)
8. 層境界の凹凸が水みち形成に与える影響
○勝島隆史(富山高専)・熊倉俊郎(長岡技科
大)・山口 悟(防災科研雪氷)
9. 斜面における多層積雪への降雨浸透
○伊東靖彦・池田慎二(土木研雪崩 C)・松下
拓樹(土木研寒地)・笠村繁幸(元 土木研寒
地)・山口 悟・上石 勲(防災科研雪氷)・野
呂智之(元 土木研雪崩 C)・秋山一弥(土木研
雪崩 C)
10. 雪底の発達過程と内部構造
○霜垣 永・島田 互(富山大理)・小杉健二(防
災科研雪氷)
11. 立山室堂平での積雪断面観測 -積雪下層の環
境シグナル変化-
○谷口貴章・島田 互(富山大理)・朴木英治(富
山市科学博物館)・川田邦夫(富山大理)
12. フィンランド積雪縦断観測_2013
○佐藤篤司(防災科研雪氷)・大宮 哲(北大低
温研)・對馬あかね(北大環境科学院)
13. 南極ドームふじにおける極低温下での圧雪地
盤造成実験
○金 高義(極地研)

III 積雪分布 (14:00-15:00)

座長：伊豫部勉 (新潟大・災害研)

14. 30 冬季の多雪指数分布
○中井専人(防災科研雪氷)
15. 長野県北部飯綱火山周辺域における積雪分布
パターン
○富樫 均・浜田 崇(長野環境研)

16. 新潟県の準リアルタイム積雪分布監視システムの開発
○伊豫部勉・河島克久・和泉 薫(新潟大学災害復興研)
17. 崩壊堆積地の土砂中に残存する雪の状況の地中レーダによる探査
○酒井英男(富山大理)・泉 吉紀(富山大理)・上石 勲(防災科研雪氷)

IV 雪崩 (15:00-17:15)

座長：町田 敬(町田建設)・伊東靖彦(土木研・雪崩・地すべり研究センター)

18. Google Earth を利用した雪崩の判読と数値化について— 富山県・立山カルデラの例—
○秋山一弥(土木研)・関口辰夫(国土地理院)
19. 岩手山西斜面で 2010-11 年冬期に発生した大規模雪崩
○竹内由香里・野口正二(森林総研)・鳥田宏行(北海道林試)・伊豫部勉(新潟大)・小杉健二・根本征樹・佐藤研吾・平島寛行(防災科研)・平山順子(北東北エリア雪崩事故防止研究会)
20. 妙高・幕ノ沢で 2012 年冬期に発生した乾雪表層雪崩
○竹内由香里(森林総研十日町試験地)・和泉 薫(新潟大)・伊藤陽一(名大)・平島寛行(防災科研)・池田慎二(土木研)
21. 2011/12 冬期に発生していた大規模雪崩による樹林倒壊
○和泉 薫・河島克久・伊豫部勉(新潟大災害研)・竹内由香里(森林総研十日町)
22. 斜面と平地の積雪安定度の比較
○池田慎二・伊東靖彦(土木研雪崩 C)・勝島隆史(富山高専)・松下拓樹(土木研寒地)・竹内由香里(森林総研十日町)・野呂智之(元 土木研雪崩 C)・秋山一弥(土木研雪崩 C)
23. 小径間伐材を利用したグライド防止工が斜面積雪に及ぼす影響
○柴 和宏(富山木研)・河島克久(新潟大災害研)・中田 誠(新潟大農)
24. 2012-13 冬期に発生した特徴ある雪崩
○上石 勲・安達 聖・山口 悟・本吉弘岐(防災科研雪氷)・伊東靖彦・池田慎二(土木研雪崩 C)・松下拓樹(土木研寒地)・町田 誠・町田 敬(町田建設)
25. 2012-13 年冬期の新潟県魚沼地域における雪崩発生状況と応急対応
○町田 敬(町田建設)・野沢真実(新潟県魚沼地域振興局)・町田 誠・岩崎 剛(町田建設)
26. 山岳レクリエーションでの雪崩死亡事故の特徴 (1990/91-2012/13)
○出川あずさ(日本雪崩ネットワーク)

《 第 2 会場 (講義室 B) 》

V 雪氷・計測・教育普及 (9:00-10:45)

座長：藤野丈志((株)興和)・小南靖弘(中央農研・北陸研究センター)

27. GPS 測量にもとづく涸沢圏谷の積雪深分布
○佐々木明彦・朝日克彦・鈴木啓助(信州大学)
28. 地中レーダ探査による氷体の内部構造の研究
○泉 吉紀・酒井英男(富山大理)・上石 勲・石坂雅昭(防災科研)
29. 各種降雪センサーによる時間降雪深の比較 (II) —長岡における 5 冬季間—
○石丸民之永・小林俊一・丸山敏介・宮腰秀巳・羽賀秀樹(新潟電機株式会社)
30. 雪氷用 MRI の冷却システムの構築
○安達 聖(雪氷防災研究セ)・尾関俊浩(北教大)・山口 悟(雪氷防災研究セ)
31. 4 極センサー (非接触路面熱収支センサー) の気象要素観測特性
山田忠幸・○杉森正義・酢谷 浩(山田技研)・竹内正紀(元 福井大工)・永井二郎(福井大工)
32. カーリング・ストーンの運動解析
○対馬勝年(富山大理)
33. 雪結晶撮影教室の実施について
○藤野丈志((株)興和)・加藤正明(長岡市立科学博物館)

VI 融雪・雪氷化学 (10:45-12:15)

座長：渡辺幸一(富山県立大学)・倉元隆之(信州大学)

34. 側溝流水熱利用ヒートポンプ融雪工法の実地試験
○細貝浩士・藤野丈志・小林雄三(株式会社興和)・上村靖司・小杉用高(長岡技科大)・細野義則(株式会社アドヴァンス)
35. 気象庁 MSM_GPV ベースの融雪モデルについて
○小南靖弘・大野宏之・佐々木華織・横山宏太郎(中央農研)
36. 日本の融雪期における雪氷藻類の繁殖に関わる積雪の物理・化学的要因
○大沼友貴彦・竹内 望(千葉大)・竹内由香里(森林総研十日町試験地)・山口 悟(防災科研雪氷)・河島克久(新潟大 災害復興科学セ)・飯田 肇・福井幸太郎(立山カルデラ砂防博物館)
37. 中部山岳地域における積雪層中の主要イオン濃度と融雪期におけるその変化
○鈴木大地・狩山裕昭(信州大理)・倉元隆之・佐々木明彦・鈴木啓助(信州大山岳科学総合研)

支部だより

38. 北アルプス西穂高岳における積雪中の化学物質動態
 ○倉元隆之(信州大山岳科学総合研)・狩山裕昭・鈴木大地(信州大理)・佐々木明彦・鈴木啓助(信州大山岳科学総合研)
39. 立山・室堂平における積雪層中のイオン成分、過酸化物およびアルデヒド類の特徴
 ○渡辺幸一・小川厚次・道上芹奈・平井泰貴・矢地千奈津(富山県立大)・上原佳敏(九大)・島田 互・青木一真・川田邦夫(富山大)

VII 利雪克雪・その他 (14:00-16:00)

座長：上村靖司(長岡技術科学大学)・河島克久(新潟大学)

40. 氷結晶法による汚染水の減容化
 ○対馬勝年(富山大理)・松山政夫(富山大水素研)・上石 勲(防災科研雪氷)
41. 消雪パイプを用いる打ち水効果のシミュレーション
 津田墨文・○鹿嶋功貴・上村靖司(長岡技科大)
42. 岩塊斜面における風穴の冷風循環に関する研究
 ○永井 翼(新潟大院)・和泉 薫・河島克久・伊豫部勉(新潟大災害研)・山口健太郎(木島平村農村文明塾)
43. 昔の雪室再生実験の試み報告
 ○早川典生(水環境技術研究会、町田建設)・和泉 薫(新潟大)・町田 誠(町田建設)
44. 雪下ろし安全のための安全帯の企画と実屋根へのアンカー設置
 ○上村靖司(長岡技科大)・諸橋和行(中越防災安全推進機構)・木村浩和(北陸地域づくり協会)
45. 新潟県と山形県における近年の人身雪害リスクの比較
 ○高田和輝・上村靖司(長岡技科大)

46. 近年の大雪による北陸地方の被害
 ○前田博司(福井工大)
47. 積雪期地域防災情報プラットフォームの構築に向けて
 ○河島克久・伊豫部勉・本田明治(新潟大災害研)・太平 忍(小千谷市)・瀬戸民枝(新潟県)

VIII 降雪 (16:00-17:30)

座長：岩本勉之

(新潟大学)・中井専人(防災科研・雪氷防災研究センター)

48. 筋状(Lモード)降雪には霰が多い 一定量的な検証
 ○石坂雅昭・本吉弘岐・中井専人(防災科研雪氷)・椎名 徹(富山高専)・村本健一郎(石川高専)
49. 地上降雪観測による融解層に伴う霰および湿雪の観測
 ○本吉弘岐(防災科研雪氷)・三隅良平(防災科研水土砂)・石坂雅昭・中井専人(防災科研雪氷)
50. 2012/13 年の大雪と大気循環場の特徴
 ○本田明治・岩本勉之(新潟大理)
51. 2012/13 年冬季新潟県の降雪分布について
 ○岩本勉之(極地研/新潟大理)・本田明治・浮田甚郎(新潟大理)
52. 冬季新潟市域周辺の降水量分布に及ぼす佐渡島の影響について
 ○木村祐輔(新潟大院理)・本田明治・岩本勉之・浮田甚郎(新潟大理)
53. 局地気象数値モデルによる風速の予測に関する研究
 ○武田光矢・熊倉俊郎(長岡技科大)

2013-2014 年度（公社）日本雪氷学会北信越支部 役員

支部長

鈴木啓助

信州大学理学部教授

川田邦夫

雪環境研究塾塾長/富山大学名誉教授

神田健三

加賀市中谷宇吉郎雪の科学館館長

副支部長

飯田 肇

立山カルデラ砂防博物館学芸課長

島田英俊

北陸電力（株）電力流通部送電チーム統括課長

上石 勲

防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター長

下村忠一

元（株）アルゴス取締役副社長

杉森正義

山田技研（株）技術顧問

古川征夫

（株）アルゴス代表取締役

町田 誠

町田建設（株）代表取締役

丸山敏介

新潟電機（株）代表取締役

横山宏太郎

元中央農業総合研究センター

和田 惇

元北陸建設弘済会理事長

顧問

泉田裕彦

新潟県知事

石井隆一

富山県知事

村山秀幸

上越市長

谷井靖夫

小千谷市長

関口芳史

十日町市長

寺前秀一

加賀市長

梅村晃由

梅村研究開発事務所所長/長岡技術科学大学名誉教授

理事

秋山一弥

土木研究所雪崩・地すべり研究センター所長

飯田 肇

立山カルデラ砂防博物館学芸課長

河田脩二

金沢大学名誉教授

小林俊一

新潟大学名誉教授

和泉 薫

新潟大学災害・復興科学研究所教授

対馬勝年

富山大学名誉教授

早川典生

NPO 法人水環境技術研究会理事長/長岡技術科学大学名誉教授

上石 勲*

防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター長

上村靖司

長岡技術科学大学機械系准教授

河島克久*

新潟大学災害・復興科学研究所准教授

評議員

寺家克昌

新潟県総務管理部長

熊倉俊郎*

長岡技術科学大学環境・建設系准教授

林 俊信

富山県生活環境文化部長

小山田裕一

上越市都市整備部道路課雪対策室長

小南靖弘

中央農業総合研究センター北陸研究センター主任研究員

羽毛田昌敏

小千谷市建設課長

佐藤篤司*

防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター研究参事

貴田幸吉

十日町市建設部長

池野正志

（株）興和常務取締役技術本部長/新潟県融雪技術協会技術委員長

鈴木啓助*

信州大学理学部教授

高田英治

富山高等専門学校教授

竹井 巖

北陸大学教育能力開発センター准教授

遠藤八十一

元森林総合研究所・十日町試験地主任

支部だより

竹内由香里	森林総合研究所気象環境研究領域チーム長	伊豫部勉 3)	新潟大学災害・復興科学研究所助教
中井専人	防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター総括主任研究員	小川克昌	（有）アサップ代表取締役
長峰 聡	新潟地方気象台観測予報課技術主任	勝島隆史 2)	富山高等専門学校助教
前田博司	福井工業大学建設工学科教授	加藤 務 5)	テクノかとう
宮崎伸夫*	（有）クライメットエンジニアリング代表取締役	加藤正明	長岡市立科学博物館総括主査
山口 悟*	防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター主任研究員	木戸瑞佳	富山県環境科学センター主任研究員
山田忠幸 （*本部理事）	山田技研株式会社代表取締役	島田 亙	富山大学大学院理工学研究部准教授
監事		瀬戸民枝	新潟県魚沼地域振興局地域整備部計画調整課課長
石坂雅昭	防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター研究参事	浜田 崇	長野県環境保全研究所研究員
佐藤和秀	長岡工業高等専門学校名誉教授	坂東和郎	（株）興和水工部次長/新潟県融雪技術協会技術委員
幹事長		本田明治	新潟大学理学部准教授
竹内由香里	森林総合研究所気象環境研究領域チーム長	町田 敬 4)	町田建設（株）
幹事		皆已幸也	石川県立大学生物資源環境学部准教授
池田慎二 1)	土木研究所雪崩・地すべり研究センター専門研究員	村井昭夫	金沢市立内川中学校教諭
		渡辺幸一	富山県立大学工学部教授
		（ 1)庶務担当, 2)会計担当, 3)雪氷北信越編集担当, 4)支部だより担当, 5)HP 担当 ）	

『雪氷北信越 第 33 号』発行のお知らせ

北信越支部では、活動報告や研究発表会・製品発表検討会の予稿集を掲載した機関誌『雪氷北信越』の第 33 号を 6 月に発行する予定です。冊子は支部内外を問わず有料（1 冊 2000 円+送料）で頒布いたします。冊子の送付をご希望の方は、下記の必要事項を電子メールに記載してお申し込み下さい。冊子の到着後に日本雪氷学会事務局から請求書が送られてきますので、それに従って料金をお支払いください（郵便振替またはゆうちょ銀行への振込）。なお、電子版は当支部ホームページ (<http://www.seppyo.org/hse/>) にて閲覧やダウンロードができます。

【冊子申込必要事項】

- 1) 氏名
- 2) 送付先住所
- 3) 連絡先電話番号
- 4) 発行年度（例：2013 年度分）
- 5) 必要部数

冊子申込の送付先：hse-editor@seppyo.org

「雪氷北信越」編集委員会宛

*バックナンバーの送付も承りますので、ご希望があれば同時にお申し込み下さい。」

問い合わせ先：北信越支部幹事 島田 互

(富山大学理学部地球科学科 気付) Tel: 076-445-6

645, E-mail: shimada@sci.u-toyama.ac.jp

「第18回雪形ウォッチング佐渡大会」報告

納口恭明（国際雪形研究会）

2013年4月13, 14日（土・日）開催の国際雪形研究会と日本雪氷学会北信越支部主催の第18回雪形ウォッチング佐渡大会は無事終了しました。参加者は61名、うち小学生は5名、はじめての参加は18名。土曜日は寒く、風もあり、新潟方面ではどんよりと雲に覆われて時折小雨も降るようなあいにくの天気でしたが、ホテルの出迎えのバス2台が両津を出発した13時頃には晴れ間もでるようになってきました。途中、翌日に見るはずの「金北山の種蒔きザル」が早々と見えていました。でも、修行の足りない初心者には見えてなかったと思います。バスは佐渡金山コースと尖閣湾遊覧船コースに別れましたが、悪天候で尖閣湾遊覧が中止になっていたために、両方ともに佐渡金山になってしまいました。

ホテルは火曜サスペンス劇場に登場する偽装自殺現場のような海岸の岩肌の上にあり、2階建ての小ぢんまりとしたリゾート風の建物で、ほぼ雪形研究会で貸し切り状態となっていました。早々と受付を済ませた会員は温泉大浴場で入浴を楽しんだり、ホテル下の海岸を散策しながら地質に詳しい会員の説明に耳を傾けたりと18時からの夕食交流会までの自由時間を過ごしました。

レストランでの夕食はバイキングスタイルだったため、恒例の自己紹介は食事が一段落した18時30分頃からとなりました。小学生を含めたほぼ全員が面白おかしく自己紹介を終えたところで19時5分、遠藤八十一研究会教祖によるエア乾杯で、交流会は終わりとなりました。

ミニシンポジウムは同じレストランで20時から、基調講演を含めて18件の発表がありました。ロボット

のアシモ君のパクリの、人間のノシモ君によるショーや南京玉すだれの実演発表、7個のボールを使った高校1年生男子会員のジャグリング技に会場は大いに盛り上がりました。シンポジウム終了後の22時30分からは冷たい風が強く吹くホテル前の公園で真夜中の花火大会が20名ほどの物好きな参加者のもと、修行のように実施されました。花火が終わったあとも、夜空の北斗七星に感動した子供会員はいつまでも天体観察をしていました。

23時過ぎからは、奥まった畳敷の多目的室に移り、親の許可を得て参加した小学1年生も含め、25時30分くらいまで熱心な分科会が続きました。それでも仮眠後の30時には空き缶と牛乳パックを使った恒例のサバイバル飯炊き、略してサバメシ体験が始まりました。体験は5組、見学・冷かしを含め参加者は20名ほど、晴れているとはいえ、風が強く、寒い中ではありましたが、30分ほどですべてのサバメシは大失敗もなくめでたく完成して31時間にも及ぶ長すぎる1日が終了し、いきなり午前7時からの朝食バイキングへと移っていきました。

出発は8時30分、出発前には修行前の一般人には恥ずかしすぎるエア双眼鏡による雪形ポーズの記念写真（写真1）と全員による「オー」という雄叫び斉唱後、バス2台に分乗し、ウォッチングへと出発しました。はじめに到着した種蒔きザルの石碑前では、なんの仕込みもないにもかかわらず、なぜか通りがかりの地元のおじいさんが種蒔きザルの写真パネルをもって現れ、親切にも私たちのために種蒔きザルの解説をしてくれました（写真2）。



写真 1.出発前の雪形ポーズ



写真 2 . 通りがかりの伊平さんによる雪形解説

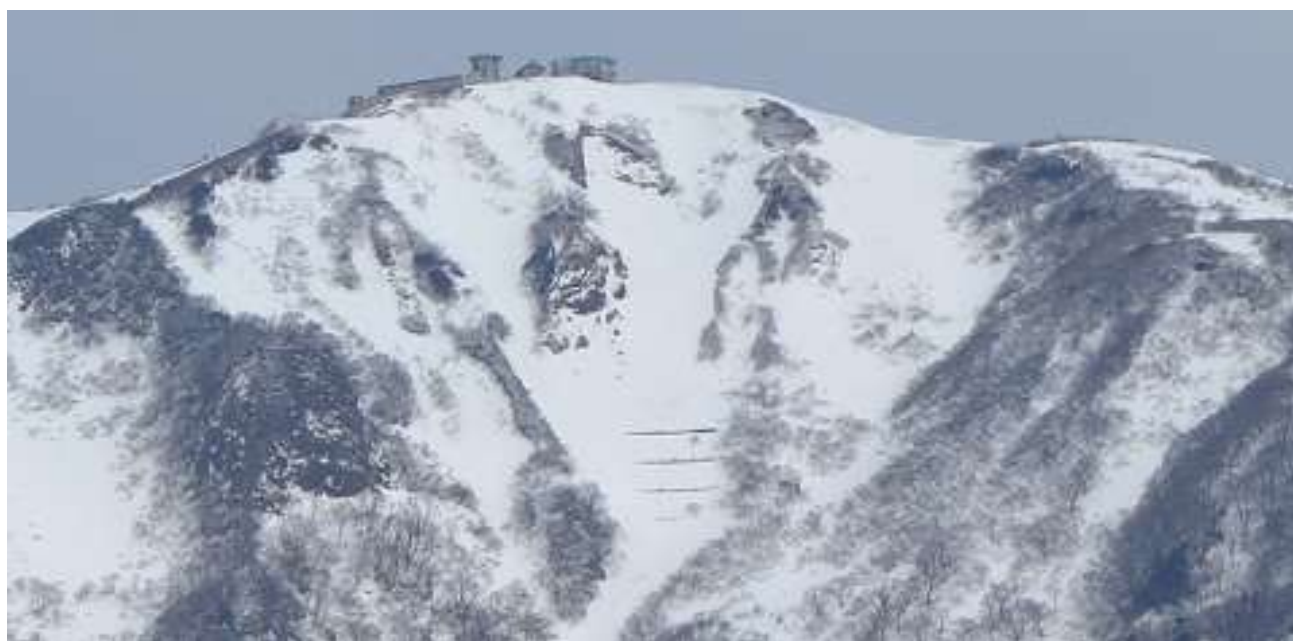


写真 3 . 金北山の種蒔きザル

次の新保川ダムでは、今回、サルに最も接近した地点でのウォッチングとなりました(写真3)。この頃には晴れて風もなく、上着を着ていると暑く感じるほどの心地いい天気となり、種蒔きザルも眼前にくっきりと現れておりました。帽子を飛ばされてダムの下まで駆け下りていった気の毒な健脚会員がいらっしやったことを除けば何ごともなく次の、桜とトイレ休憩の真野公園へと向かいました。

今回の貸切りバスはガイドさんなしの節約貧乏契約でしたが、ありがたいことに、おそらく「施し(HODOKOSHI)」で、それぞれのバスには地元出身で、年齢の壁をはるかに越えてもなお美貌のガイドさんが添乗され、凡庸な一般人相手の通常の観光案内では語られることのない、予定外の両津から見える雪形「ドンデンの白キツネ」情報をいただいたり、佐渡おけさを運転手さんの合いの手で歌っていただいたり、「大施し」でした。しかし、一番驚

いたのは、運転手さんが運転しながら、本場ならではの正調佐渡おけさを、ガイドさんの合いの手で歌っていただいたことでした。

その後、妙宣寺・五重塔、トキの森公園での朱鷺など佐渡観光を満喫しつつ、12時30分から佐渡汽船ターミナル3階のレストランで昼食いただきました。いただいたのはドロドロヌルヌルで多くの子供会員には嫌われながらも、好きな人にはたまらなく美味な「海鮮ながも丼」でした。

お昼を済ませ、解散となりましたが、解散前に、次の開催場所未定のまま、次々回の第20回雪形ウォッチングは離島シリーズとして利尻でやろうということが賛成多数で決められ、会員は別れを惜しみつつ、再会を約束してそれぞれの帰路につきました。なお、過去のデータでは2回続けて雪形ウォッチングに参加する人の割合は約50パーセント、利尻で再会できる方は極めてわずかと思われます。

『「移動する雪について」の講演会』報告

安達 聖（雪氷防災研究センター）

2013年5月10日（金）、まちなかキャンパス長岡にて「移動する雪について」の講演会を開催した。「移動する雪」をキーワードに「雪崩」と「吹雪」について、雪氷防災研究にご尽力された（独）防災科学技術研究所アウトリーチグループ契約専門員納口恭明氏，ならびに（独）防災科学技術研究所監事佐藤威氏に，それぞれ「わたしはなぜナダレンジャーになったか」，「雪道を歩きながら」の題目で講演していただいた．両氏の講演は研究活動を振り返るとともに，専門的であるがゆえに退屈になりがちな話題に独自のユーモアを交えることで最後まで飽きさせることなく69名の参加者を楽しませた．

納口恭明氏は Dr.ナダレンジャーの衣装に身を包み，会場前方に参加者の大学生らを招き寄せ，日頃開催しているサイエンスショーのように，地盤液状化実験ボトル「エッキー」や雪崩シミュレーター「ナダレンジャー」を紹介されていた．それらを初めて見た大学生らは驚嘆の声をあげていた．（写真1）

佐藤威氏のご自身の研究活動について，当時の写真や動画を使用し時系列に沿って振り返られるとともに，これからも研究を続けていくことを明言されていた．

翌日に北信越支部大会研究発表・製品発表検討会の開催が控えているにも関わらず，大勢の方に参加していただき，すばらしい講演会となった．（写真2）



写真1 学生にナダレンジャーを紹介する納口氏



写真2 講演会参加者集合写真

「今年の雪 速報会 2012-13」開催報告

早川 典生（NPO法人 水環境技術研究会）

この会は、日本雪氷学会北信越支部、防災科学技術研究所、NPO法人 水環境技術研究会、3団体の共催の下に行われるもので、内容的には主として新潟県を対象として、過ぎ去った冬季の雪（降雪、積雪）と、雪による災害の状況を、関連する機関の担当者や研究者を講演として招待して行われるものであり、北信越支部においてはこれを支部行事の講演会と位置づけている。

この会は今年も5月20日（月）長岡市において開催された。8件の講演の題目及び講演者は以下のものであった。

「北陸地方を中心とした2012/2013冬期の天候と降雪の特徴」

市川 寿（気象庁新潟地方気象台）

「新潟県内の積雪深分布の準リアルタイム監視システムの開発」

伊豫部 勉（新潟大学 災害・復興科学研究所）

「三年続きの大雪と今冬の雪ー降積雪観測から見た特徴ー」

石坂雅昭（（独）防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター）

「2013年02月25日栃木県で発生地震に起因した雪崩」

伊東靖彦（（独）土木研究所 雪崩・地すべり研究センター）

「今冬の雪崩ー新潟県魚沼地域においてー」

町田 誠，町田 敬（町田建設（株））

「長岡国道事務所管内の降雪状況と対応」

三浦義則（国土交通省 長岡国道事務所）

「新潟県の冬期道路管理の取り組み」

沼屋賢一（新潟県土木部道路管理課）

「今冬の豪雪と魚沼市における空き家対策」

渡辺和雄（魚沼市企画政策課）

講演題目に見るように、気象庁新潟地方気象台からは、今冬の全球動向から大雪傾向を説明し、雪氷防災研究センターの統計では大雪傾向が3年も続いたことを示した。

さらに実際に雪災害に直接携わる人たちから、今冬雪崩発生と、降雪による交通障害の多発が報じられ、また魚沼市では無人家屋で雪による倒壊の報告があった。本会には93名の参加者集まり活発な討論が行われた。



写真1 質問に答える講演者



写真2 満員の会場